

第5学年 学級活動（1）学習指導略案

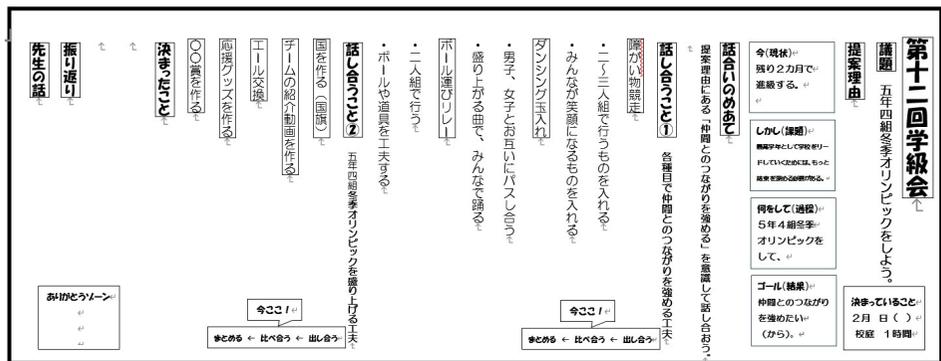
| | | | | | |
|-----|------|-----|------------------|-----|-------------|
| 教科等 | 学級活動 | 議題 | 5年4組冬季オリンピックをしよう | 本時 | 全1時間扱いの1時間目 |
| 学級 | 5年4組 | 授業者 | | 教室等 | 4階 5年4組教室 |

<本時の指導>

| | |
|---|---|
| <本時のねらい> ・提案理由にある「仲間とのつながりを強める」を意識して話し合い、5年4組冬季オリンピックの工夫を決めることができる。 ・振り返りのときに、自分や友達のよかったところを書き、伝えることができる。 | |
| <p>主な学習活動【4つの視点】</p> <p>主な発問:T 予想される児童の反応:C</p> <p>導入</p> <p>1.司会台本に沿って、話し合いを始める。【発見】</p> <p>(1) 始めの言葉</p> <p>(2) 司会グループの紹介</p> <p>(3) 議題・提案理由・話し合いのめあて・決まっていることの確認</p> <p>【議題】5年4組冬季オリンピックをしよう。</p> <p>【提案理由】</p> <p>今（現状）残り2カ月で進級する。 しかし（課題）最高学年として学校をリードしていくためには、もっと結束を深める必要がある。 何をして（過程）5年4組冬季オリンピックをして、 ゴール（結果）仲間とのつながりを強めたい（から）。</p> | <p>○研究主題にせまる6つの手立て</p> <p>□…指導上の留意点 ☆…評価 ※UD</p> <p>□学級会の形（コの字）にして、話し合いを行わせる。※場の構造化</p> <p>□事前に司会グループと話し合いの流れを確認しておく。※時間の構造化</p> <p>□児童の学級会カードの考えを、事前に司会グループと一緒に短冊に集約し、分類・整理しておく。※視覚化 ※焦点化</p> <p>□話し合いの流れや決まっていることを共通理解できるようにする。※焦点化</p> |
| <p>展開</p> <p>2.出された意見を基に比べ合う。【対話】【表現】</p> <p>話し合うこと①「各種目で仲間とのつながりを強める工夫」障がい物競走</p> <p>C：2～3人組で行うものを入れる C：みんなが笑顔になるものを入れる ダンシング玉入れ C：男子、女子とお互いにパスし合う C：盛り上がる曲で、みんなで踊る ボール運びリレー C：2人組で行う C：ボールや道具を工夫する</p> <p>話し合うこと②「5年4組冬季オリンピックを盛り上げる工夫」</p> <p>C：国を作る（国旗） C：チームの紹介動画を作る C：エール交換 C：応援グッズを作る C：〇〇賞を作る</p> <p>3.比べ合った意見を基にまとめ、決定する。【対話】【決定】</p> <p>4.ノート記録が、決まったことを発表する。</p> | <p>○話題設定の工夫</p> <p>クラス全員に「議題提案カード」を書かせ、数が多かった議題や今、5年4組に必要なことを議題にする。</p> <p>□児童の思考の手助けになるような板書を中心掛け、話し合いの流れが一目で分かるようにする。※視覚化</p> <p>□提案理由を意識させ、自分の考えに理由を付けて、発言させる。 ※共有化</p> <p>○話し合いの話し方の提示</p> <p>「意見をまとめるための話し合い方」を活用させ、「比べ合う」「まとめる」時間の際に活用させる。また、司会グループには、「学級会の進め方」のめくりプログラムを使用させる。</p> <p>☆提案理由を意識しながら5年4組冬季オリンピックの工夫を考え、合意形成している。</p> <p>□以下のようなときは助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導上、人権上問題のあるとき ・自治的範囲を超えたとき ・ねらいから大きくそれたとき ・話し合いが混乱したとき ・規律が乱れたとき ・児童の伝え方が不十分なとき |

| | |
|--|--|
| <p>終末</p> <p>5.話し合いを振り返る。【対話】</p> <p>(1) 学級会カードに振り返りを書き、みんなに伝える。 (2) 先生の話（終末の助言）を聞き、頑張りや次回の課題を知る。</p> <p>終末の助言で取り上げる内容</p> <p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進行を助けた意見 ・提案理由を意識した意見 ・司会グループを助けた意見 ・困っている子を助けた言動 <p>【司会グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決めるために工夫していたこと ・見やすい黒板にするために工夫していたこと ・協力していたこと | <p>□今日のMVPを発表させ、みんなで称賛する。※クラス内の理解促進</p> <p>☆学級会カードに自分や友達のよかったところを書き、伝えることができる。</p> <p>□学級のために貢献した児童や司会グループを賞賛し、次回の学級会へ繋げさせる。必要に応じて課題を投げかける。また、これからの実践に向けての準備、集会への意欲付けをする。※クラス内の理解促進 ※適用化</p> |
|--|--|

【板書計画】



【研究主題にせまる6つの手立てとの関連】

(1) 「自分の考えを言葉で表現する」ための手立て

議題設定の工夫

クラス全員に「議題提案カード」を書かせ、数が多かった議題や今、5年4組に必要なことをみんなで話し合いながら議題を設定する。その際、提案理由<今（現状）→しかし（課題）→何をして（過程）→ゴール（結果）>を大切に、計画委員会と相談しながら決定する。

話し合いの話し方の提示

学級会の進め方のオリエンテーションで配布した「意見をまとめるための話し合い方」を活用させる。これは、「意見・賛成・反対・付け足し・質問」の話し方を提示したもので、特に、「比べ合う」「まとめる」時間の際に活用させる。また、司会グループには、話し合いが円滑に進められるように「学級会の進め方」のめくりプログラムを使用させる。

(2) 「学び合う」ための手立て

意図的にグルーピングされた小集団での交流活動の設定

振り返りのときに自分や友達のよかったところを書き、伝える場面を設定する。その際、全体の前に小集団での交流を行う。グループは、日頃から慣れている生活班で行うことで、話すことへの抵抗感を少なくする。お互いの考えを受け止める機会を増やし、全体交流に繋げさせていく。

交流の目的と視点の明確化

クラス全員の「議題提案カード」から、5年4組に必要な議題を設定し、交流の目的をもって学級会に臨ませる。提案理由にある「仲間とのつながりを強める」という視点を意識させながら、話し合いを進める。